

シブパネルを開催するにあたって

1. 打ち合わせで行うこと

- ・チームメンバーの信頼関係が大切です。協力者に感謝の気持ちを伝え、自己紹介から始めます。パネリストの当日呼んでほしい名前を決めておきます。
- ・会場の広さや聴衆との距離、聴衆の属性や人数、きょうだいの気持ちについてどんな知識があるか、わかる範囲で共有します。
- ・当日予定されている質問の意図を1つずつ確認します。1人あたりの回答の時間の目安を伝えます(短くなくても超過してもOKなこともあわせて伝えます)どんなふうに答えるか、何を話して何を話さないかを想像して心の準備をすること、他のパネリストはどんなことを話すのかを事前に共有しておくことで当日の安心につながります。
- ・当日に会場から集めた質問に回答する際、避けてほしいテーマなどがあれば予め聞いておきます。
- ・明確に答えられなくてもよいこと、回答したくない質問には答えなくてよいこと、打ち合わせと当日で答えが変わってもよいことを確認します。
- ・当日の会場、集合時間と場所、交通費と謝金の支払い方法について伝えます。
- ・不安なこと、確認しておきたいことは打ち合わせ後もいつでも聞けるように連絡先を伝えます。

2. 振り返りで行うこと

- ・経験を話してくれた「勇敢なきょうだい」に感謝します。人前で経験を話したあとは気分が高揚したり、「あれでよかったのか…」と不安になったりするものです。登壇中に感じたこと、今感じていることを共有し、あなたの話がとても大切な大きな学びだったことを伝えます。
- ・もやもやを一人で抱えて帰ることを避けるため、アンケート結果をみんなで一緒に共有します。
- ・パネリストから見た改善点や気になったことなども教えてもらいます。
- ・リラックスした空気で話せるよう、美味しいお菓子や飲み物も準備しておきましょう。

3. アンケートについて

- ・話の内容が「よかった」「よくなかった」のように、パネリストの話が評価されるような項目は避けましょう。

4. 環境設定、スケジュール、質問について

会場が安心安全の場になるよう工夫します。

- ・パネリストのそばにティッシュを用意しておく。話しながら涙が出たときに使ってもらいます。初めから用意しておくことで、泣いてほしいというメッセージにもなります。鼻セレブ推奨。
- ・パネリストとモデレーターの机をななめ(「ハ」の字)にしておく。完全に同じ方向を向いてしまうよりも対話している感じが出ます。また、聴衆と視線をずらすことで圧迫感が軽減されます。

試行時の前半部分の質問

- ①あなた自身のこと。年代、仕事や好きなこと、興味があることなど。
- ②あなたの家族のこと。家族構成など。
- ③あなたの特別なニーズのある兄弟姉妹のこと。年代、仕事や、好きなこと、興味があることなど。
- ④兄弟姉妹の病気や障がいについてどんなふうに知りましたか?(どのように説明されましたか?)
- ⑤きょうだいとして、困ったことがあれば、教えてください。
- ⑥きょうだいとして、よかったことがあれば教えてください。
- ⑦「自分と兄弟姉妹の将来」と聞いて、何が頭に浮かびますか?

後半は、聴衆から集めた質問紙への回答のあと、最後の質問をしました(最後の質問の回答のみ、OKの部分だけまとめて公開予定)

- ⑧周りの大人の人がしてくれてうれしかったこと/いやだったこと「きょうだい」に会う大人に伝えたいことは?

試行のスケジュール

- 10:00 趣旨説明
- 10:15 パネルトーク
- 11:15 休憩(質問回収)
- 11:30 質問に回答
- 12:15 アンケート記入

「よかったこと」について

質問の中に「きょうだいとしてよかったこと」を問う質問があります。きょうだいとして自身が成長できたことや世界が広がったこと、職業選択につながったことなどを挙げるきょうだいもいれば、きょうだいとしてよかったことはないと感じているきょうだいもいて、どちらも大切な気持ちです。

「よかったことはない」の中にもひとりひとり違う気持ちがあります。試行の中でも、楽しかった思い出や印象に残っているエピソードはあっても、それをまとめて「よかった」とは評価できない

・その時々的心情によってよかったと感じる瞬間もあればそうでない瞬間もある
・よかったと感じていることはあるが、いろいろな経験をすべて病気や障がいのある兄弟姉妹につなげてほしくない、など、さまざまな意見がありました。

また、「よかったこと」を答えることを期待されているのを感じたり、聴衆がほっとできるように回答をしばらく待たなければと思うとつらい、この質問をされること自体が苦手、子どもには聞かないしてほしい、という大切な声もありました。一方で、自己評価が低かったきょうだいが、きょうだいとしてよかったこともあると感じることで救われたというエピソードや、きょうだいの人生にはつらいことしかないという前提で話を聴かれるのは悲しいという意見もあり、この質問がパネリストを傷つけないう、どの回答もOKで大切であることをひときわ丁寧に伝えることが必要と感じています。